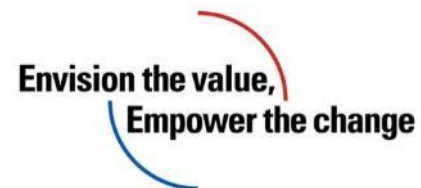


第2回

食料・農林水産業領域に係る国際標準戦略検討会 【検討内容】

2026年 3月 2日

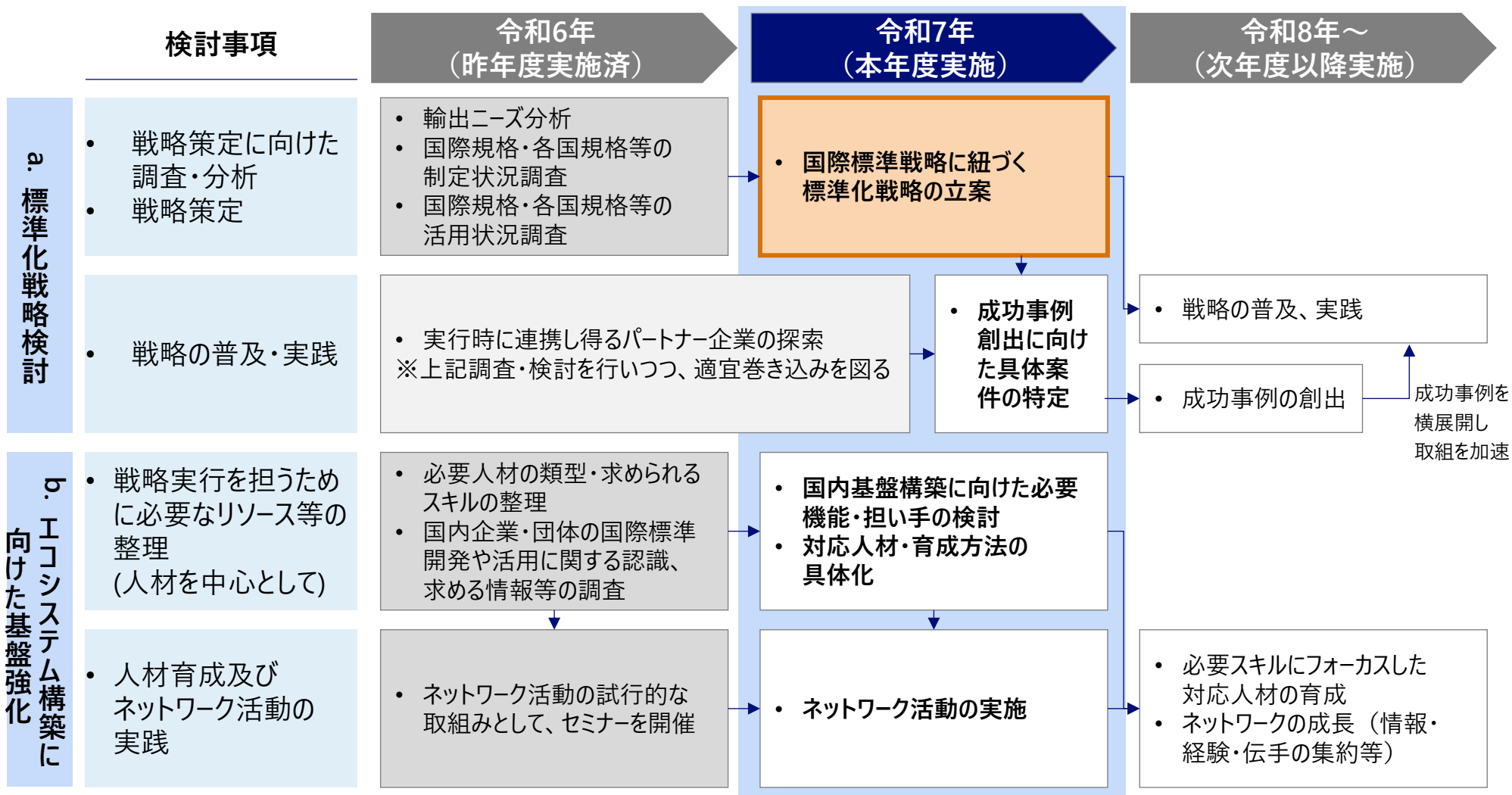
株式会社野村総合研究所



戦略検討の進め方・本日の検討事項

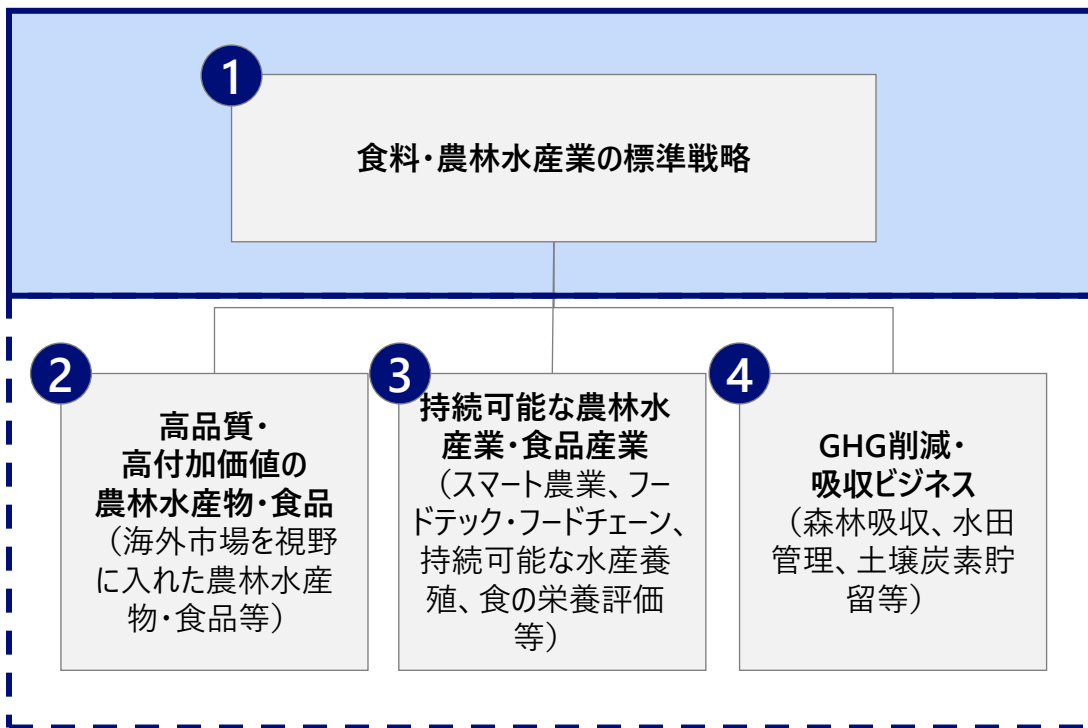
- 食料・農林水産分野の国際標準戦略素案
- 今後のスケジュール

本年度は、「国際標準戦略に紐づく標準化戦略の立案」「成功事例創出に向けた具体案件の検討」「推進基盤構築に向けた検討」を推進する



全体戦略①の中で、②③④については概要のみ触れることとする。②③④の詳細な戦略はオーソライズされた①を受けて、各担当主体が検討する想定

本検討会のスコープ



	検討状況	今年度の実施方向性
① 食料・農林水産業の標準戦略	- (国際標準戦略での整理のみで、具体的な検討は未実施)	②～④の検討結果を取りまとめる形での整理を実施
② 高品質・高付加価値の農林水産物・食品	昨年度の農水省事業で検討推進	昨年同様に農水省事業で検討推進
③ 持続可能な農林水産業・食品産業	スマート農業に関しては、昨年度農研機構事業で検討推進	昨年同様に検討を予定
④ GHG削減・吸収ビジネス	昨年度農研機構事業で検討推進	昨年同様に検討を予定

本日は以下の観点を中心にご意見頂きたい

アジェンダ

戦略検討の進め方・
本日の検討事項

食料・農林水産業分野の
国際標準戦略素案

ご意見を頂きたい観点

—

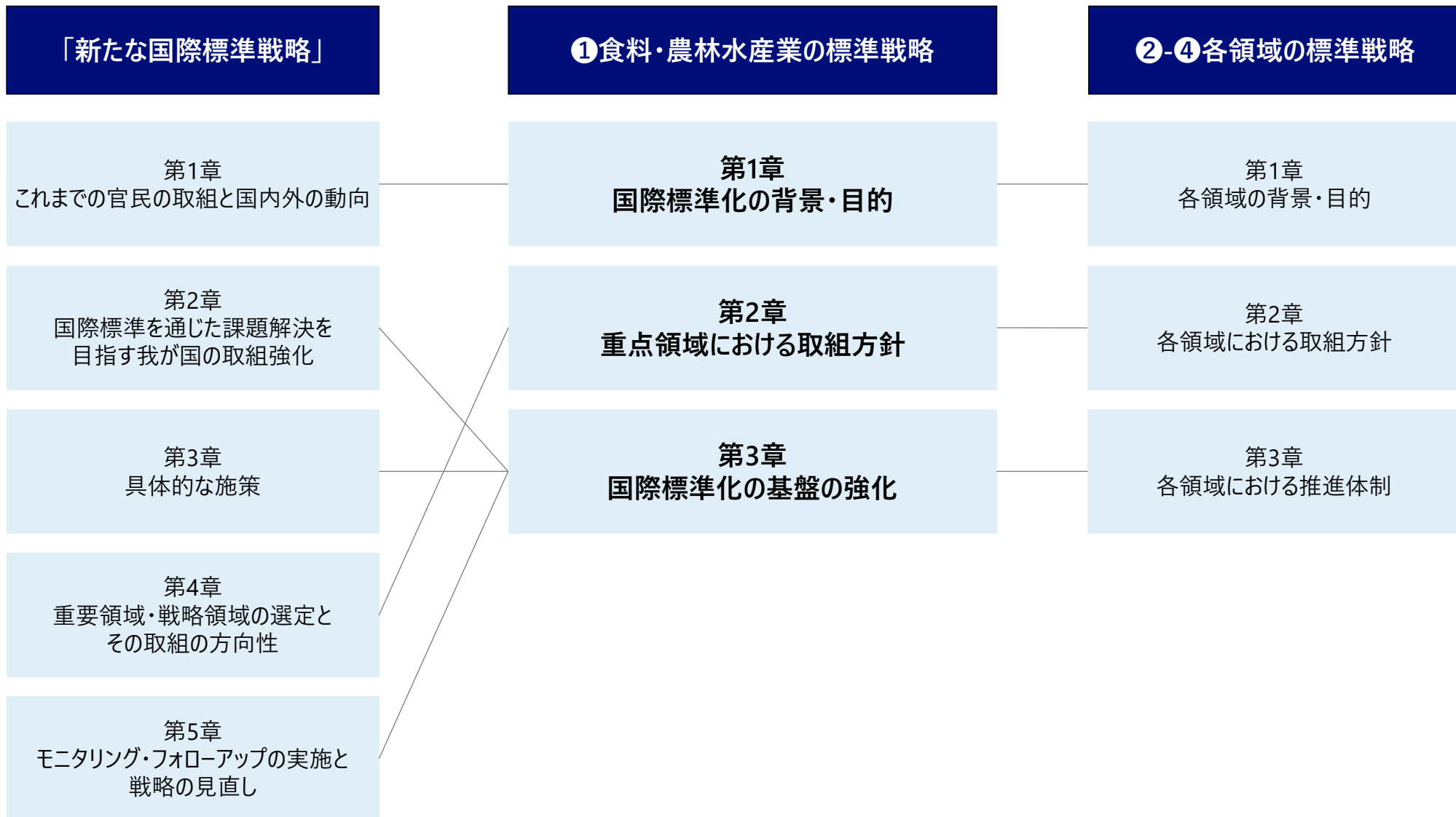
- ご指摘いただいた意見が適切に反映されているか
- 全体の分量・パートごとの分量のバランスは適切か
- 公開する戦略として情報の粒度は適切か

■ 戦略検討の進め方・本日の検討事項

食料・農林水産分野の国際標準戦略素案

■ 今後のスケジュール

国際標準戦略を踏襲する形で、本戦略の大枠を設定している



戦略素案のパートごとの議論の流れとポイント

はじめに

- 国の新たな指針「知的財産推進計画2025」と「新たな国際標準戦略」の策定
- 食料・農林水産業の「戦略領域」としての重要性
- 本戦略の目的とフードサプライチェーン全体を対象とするスコープ
- 国際標準に関する用語の定義（デジュール、フォーラム、デファクト標準等）
- 農林水産省「知的財産戦略2030」との連携とオープン戦略としての位置づけ
- 市場創出と課題解決のための「ツール」としての戦略的な標準化活用
- 各国の規制対応や民間規格、認証、計算法等も視野に入れた包括的なアプローチ

第1章 国際標準化の背景・目的

- 世界の食料・農林水産業を取り巻く環境
- 日本にとっての市場機会と国内の構造的課題
- 食料・農林水産分野特有の課題
- 標準化のメリットとリスク、他国主導の標準化がもたらすリスク
- 国際標準活用が目指す2つの姿「社会課題解決」と「市場創出」
 - アプローチ(1) 社会課題解決：生産性の向上、持続可能性の確保
 - アプローチ(2) 市場創出：規制対応、新規マーケット創造、マーケット拡大、他国との差別化

第2章 重点領域における取組方針

- 標準化を推進する3つの重点領域の設定
- 重点領域①-1：高品質な日本産品の輸出拡大に向けた標準活用戦略
- 重点領域①-2：高機能バイオ素材の評価法標準化による新市場の創出
- 重点領域②-1：スマート農業におけるデータ連携標準化の主導
- 重点領域②-2：フードテック
- 重点領域②-3：「食事全体での栄養バランス」という新概念の提唱と国際ルール形成
- 重点領域③：GHG削減・吸収技術の評価方法に関する国際標準化

第3章 国際標準化の基盤の強化

- 食料・農林水産分野特有の構造的課題
- 施策① 産官学金の連携強化と産業界の主体的な参画促進
- 施策② 人材育成を核とした「標準エコシステム」の構築
- 施策③ 戦略の実効性を高める省内推進体制とオールジャパンでのガバナンス強化
- 施策④ 国際機関でのポスト獲得など戦略的な国際連携の強化
- PDCAサイクルの確立：継続的なモニタリングと社会情勢に応じた戦略の柔軟な見直し

委員の皆様・農林水産省内から頂いた主なご意見と対応方針は以下の通り (1/4)

パート	#	該当箇所	要点	対応方針
はじめに	#1	全体	<ul style="list-style-type: none"> 規格・認証・標準の用語は一貫性をもたせた方が良い。標準化を行うという視点で「規格」、適合性評価の結果を使用するという観点で「認証」、標準化はそのまま「標準化」など。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で対応・統一
	#2	P1の10行目	<ul style="list-style-type: none"> 国際標準化の意義・目的・効果を冒頭で示すと良い。(坪山) 今まさに標準化が必要だという書きぶりにしてほしい。(江藤) 	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな国際標準戦略」の記載をベースに対応
	#3	P1の18行目	<ul style="list-style-type: none"> 「国際標準化を通じた国内外の課題解決と市場創出のために」といった表現の方が良いのではないかと。(オブザーバー) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#4	P1の23行目	<ul style="list-style-type: none"> 「関与を高める」という表現より、国としてリーダーシップをとって進めていくという意気込みが出ると良い。(江藤) 国が取り組む必要がある理由として食糧安全保障に言及した方が良い。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな国際標準戦略」第2章の「政府が前面に立って国際標準活動をリードする」から引用 日本成長戦略会議で食料安全保障、標準化について言及されており、反映
	#5	P1の33行目	<ul style="list-style-type: none"> 国際標準の定義で、測定方法や判断基準に、検査技術・検査方法を加えると良い。畜産や種子で、規制に近い運用をされている。(元林) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場を保護する観点で活用する規制は、国際標準には含むものの本戦略のメインスコープではないため、記載はせず
	#6	P2の19行目	<ul style="list-style-type: none"> デファクトスタンダードの存在は前提ではない。「技術の優位性を生かせる規格化を図る」という表現が適切ではないかと。(谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> ルールがない領域とある領域を対比している。例示としてデファクトスタンダードを挙げるよう修正
	#7	P2の21行目	<ul style="list-style-type: none"> 養殖のASCで取り扱われない魚種で日本が輸出したい魚種への対応など、国際的な規格はあるが、日本固有の食品が適用範囲外になるため対応が必要なケースを追加してほしい。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#8	P2の34行目	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント規格はマネジメントシステム規格が正確。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 図表1と合わせて対応
	#9	P3の図表1	<ul style="list-style-type: none"> MELより国際的に普及するMSC/ASCの方が良いかと。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#10	P3の3行目	<ul style="list-style-type: none"> 第三者適合性評価は、第三者に限らず自己宣言もあるため記載は見直しが必要。(出田、谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#11	P3の15行目	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」の最後で、戦略を通して産業界や学術界の意識改革・行動変容を期待しているという呼びかけのメッセージがあると、自分も関わるものだと伝わる。(坪山) 	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな国際標準戦略」の記載をベースに対応

委員の皆様・農林水産省内から頂いた主なご意見と対応方針は以下の通り (2/4)

パート	#	該当箇所	要点	対応方針
第1章	#12	P4の13行目	<ul style="list-style-type: none"> ・フードテックやスマート農業を含めて農業の変革を促す意味で、イノベーションを支えるという視点を入れると良い。(小倉) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応
	#13	P5の7行目	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットが1.1に埋もれており、別で見出し化しても良い。(坪山) ・デメリットに、標準化によるメリットを享受できなければ、コストの浪費につながるリスクがある旨を記載してほしい。(出田) ・標準化をやるメリット、他国主導の標準化に従わされる危険を先に書き、標準化によるリスクを後ろにした方が良い。(江藤) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめに」の加筆も合わせて対応
	#14	P5の24行目	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな国際標準戦略」では、経済安全保障も重要としている。(谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済安全保障について加筆
	#15	P6の図表2	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題解決と市場創出は並列で書き、それらを支える標準化とすると良い。標準化が第2章の重点領域につながる。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・並列に図を修正
	#16	P6の6行目	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上を基盤整備にして範囲を広げた方が良い。日本の農林水産物・食品を海外で展開するための施策も基盤整備として取り扱える。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな国際標準戦略」の「食料・農林水産業の生産性向上と持続性の両立が必要」を参照しており、生産性向上のままとする
	#17	P6の10行目	<ul style="list-style-type: none"> ・フードテックは、人々の価値観や社会の受容性の変化が重要である。安全性、バイオベース、環境負荷の低さ等を可視化するための規格も想定され、生産性向上に限られる必要はない。(谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章は一側面への言及として、第2章のフードテックのパートで言及する予定
	#18	P6の23行目	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出に際しての規制対応は、特に欧州向けで影響が出ている旨を加筆すると良い。森林規制、スマート農業に関するAIの規制など。(小倉、元林) ・国の規制が取引先の要求・グローバルの取引条件か、既存の認証取得か認証スキームの開発かが混ざっている。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・規制について記載を充実化 ・オプションを整理
	#19	P7の21行目	<ul style="list-style-type: none"> ・「市場創出」が新市場を作る狭い意味に見える。(江藤) ・既存市場における競争優位性の確保によるシェアの維持・拡大は、「市場創出」より「シェア拡大」とした方が良い。(谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな国際標準戦略」の「社会課題解決と市場創出」を参照している ・「差別化によるシェア拡大」とする

委員の皆様・農林水産省内から頂いた主なご意見と対応方針は以下の通り (3/4)

パート	#	該当箇所	要点	対応方針
第2章	#20	全体	<ul style="list-style-type: none"> 第2章でも適合性評価について記載すると良い。(出田、谷貝) ①-1で、特に差別化では適合性評価の活用を含める。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 適合性評価まで検討が進んでいる項目は多くないが、可能な範囲で加筆
	#21	全体	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな国際標準戦略」は各戦略領域で必ずしも十分な検討が尽くされていないため、見落としがある可能性もある。(谷貝) 	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな国際標準戦略」を「ベース」にしつつ、農水省として実際に取り組んでいる内容を中心に記載
	#22	P8の11行目	<ul style="list-style-type: none"> ①高品質・高付加価値の農林水産物・食品の中で、新たな項目として災害食を追加するのはどうか。(坪山) 	<ul style="list-style-type: none"> 検討が進んでいるものとして①-1で具体例として挙げている。項目は「新たな国際標準戦略」に準ずる
	#23	P9の16行目	<ul style="list-style-type: none"> 日本の強みとして質の高さだけでなく文化や歴史的背景も加えると良い。(小倉) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#24	P9の18行目	<ul style="list-style-type: none"> 安全は食品安全に。FSSC22000はFSSC 22000。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#25	P9の33行目	<ul style="list-style-type: none"> 川下領域の規格化の具体例を示してほしい。(坪山) 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#26	P10の7行目	<ul style="list-style-type: none"> 高機能バイオ素材の記載がバイオ医薬品に偏っているので、生物由来資材全般に広げた方が良いのではないかと。(小倉) 農林水産省の所掌を示すと良いのではないかと。(オブザーバー) 	<ul style="list-style-type: none"> 他省庁との連携は必要だが、あくまで省内で検討が進んでいるものを一例として記載
	#27	P10の28行目	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティについて、ISO/TC23/SC19との関係や適合性評価の可能性、ISO/TC347との関係を言及しても良い。(出田) 	<ul style="list-style-type: none"> 他箇所と整合をとり、具体的なISOグループについては言及しない
	#28	P11の6行目	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業が農業機械に寄っているので、AIやセンサー、スマートファクトリーなど広げた方が良い。(小倉、元林、オブザーバー) 「世界に誇る農業機械メーカー」には違和感。ASEANでの日本のトラクターのシェアなど客観的データを記載できると良い。(元林) デジュール標準、フォーラム標準の括弧書きは不要か。(元林) ASEAN市場から世界市場を獲得するとできないか。(江藤) 	<ul style="list-style-type: none"> 一例として記載するもので、広範な内容の記載は行わない 「世界に誇る・・・」は当該箇所の記載を削除 デジュール標準、フォーラム標準の括弧書きの削除を含め、記載を見直し 現況を踏まえ、現在の記載のままとする
	#29	P11の16行目	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業技術がカーボンクレジットの算定に役立つ場面がある。GHGとスマート農業で課題がリンクする。(元林) 	<ul style="list-style-type: none"> 両者をリンクさせた記述を追加
	#30	P11の33行目	<ul style="list-style-type: none"> 食の栄養評価は、日本食の強みである味の要素も考慮できると良い。(小倉) 	<ul style="list-style-type: none"> 省内で検討が進んでいるものを記載
#31	P12の27行目	<ul style="list-style-type: none"> GHG削減・吸収ビジネスに、生物多様性・水資源の循環・新規化学物質の流出なども含めるべきではないか。(小倉) 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性は認識しつつ、まずは省内で検討が進んでいるものを記載 	

委員の皆様・農林水産省内から頂いた主なご意見と対応方針は以下の通り (4/4)

パート	#	該当箇所	要点	対応方針
第3章	#32	P14の9行目	<ul style="list-style-type: none"> 輸出先国の規制に、輸出先国の取引先の要求する規格（または要求事項）を追加してほしい。（出田） 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#33	P14の15行目	<ul style="list-style-type: none"> 必要性は認識されているものの、個社では投資が過大となりやりきれないため、実行に至らないというケースもある。（小倉） 自ら作れると知られていないことも課題ではないか。（坪山） 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性が理解されていないの後に追加
	#34	P14の31行目	<ul style="list-style-type: none"> 産官学金は、金銭的支援ではなく金融機関。金融機関の記載の必要性について検討してほしい。（小倉、江藤） 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスを支える立場として金融機関の役割も加筆
	#35	図表3	<ul style="list-style-type: none"> 普及を見据えて、適合性評価機関も入れる。（出田） 	<ul style="list-style-type: none"> 図表3の位置を文章直下に移動 専門機関に適合性評価機関を含める
	#36	P15の9行目	<ul style="list-style-type: none"> 推進主体（事業者）側の人材は、経営層のように特定した方が良い。支援体制も同様に、人への投資が重要で両者が人を出せるようになることが重要。（出田） 標準エコシステムの強化は基本的に人材育成となっているが、標準・試験・認証をパッケージで進めていくためには、その専門機関（規格策定機関、認定機関、試験・検査機関、認証機関）も同時に育成する必要がある。（谷貝） 人材育成だけでなく、人材をつなぐエコシステムの構築が必要。（小倉、元林） 人材育成の重要性をタイトル等で見える化すると良い。（坪山） 	<ul style="list-style-type: none"> 項目分けは「新たな国際標準戦略」の記載を踏襲している 期待される役割として各団体名を記載 エコシステムは人材＋ネットワークであり、ネットワークについて加筆 「専門機関」に統一して加筆
	#37	P15の9行目	<ul style="list-style-type: none"> 国際標準は民間規格の側面もあり、「守るべき」という記載は要検討。（オブザーバー） 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#38	P15の21行目	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議で戦略を立てるのでは遅く、会議の場に至る前段階から戦略を立てるというニュアンスが出せると良い。（オブザーバー） 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#39	P16の27行目	<ul style="list-style-type: none"> 議長や幹事国に、ややハードルの低いプロジェクトリーダーを加えると良い。（坪山） 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#40	P17の7行目	<ul style="list-style-type: none"> 国際連携の強化で、海外への技術・資金提供に標準化活動を組み合わせると動きを記載すると良い。（小倉） 	<ul style="list-style-type: none"> 対応
	#41	P17の21行目	<ul style="list-style-type: none"> 締めとして、戦略の取りまとめを追加する。（事務局） 	<ul style="list-style-type: none"> —

■ 戦略検討の進め方・本日の検討事項

■ 食料・農林水産分野の国際標準戦略素案

今後のスケジュール

今後のスケジュール

- 本日も時間等の関係でご発言が難しかった場合、委員の皆様、オブザーバーの皆様は、後日メールベースで構いませんのでまたご意見を頂けますと幸いです。
- 本日の議論を元に更新し、公開に向けて最終化を進めてまいります。



**Envision the value,
Empower the change**